

薬袋印刷システム

基本操作

目次

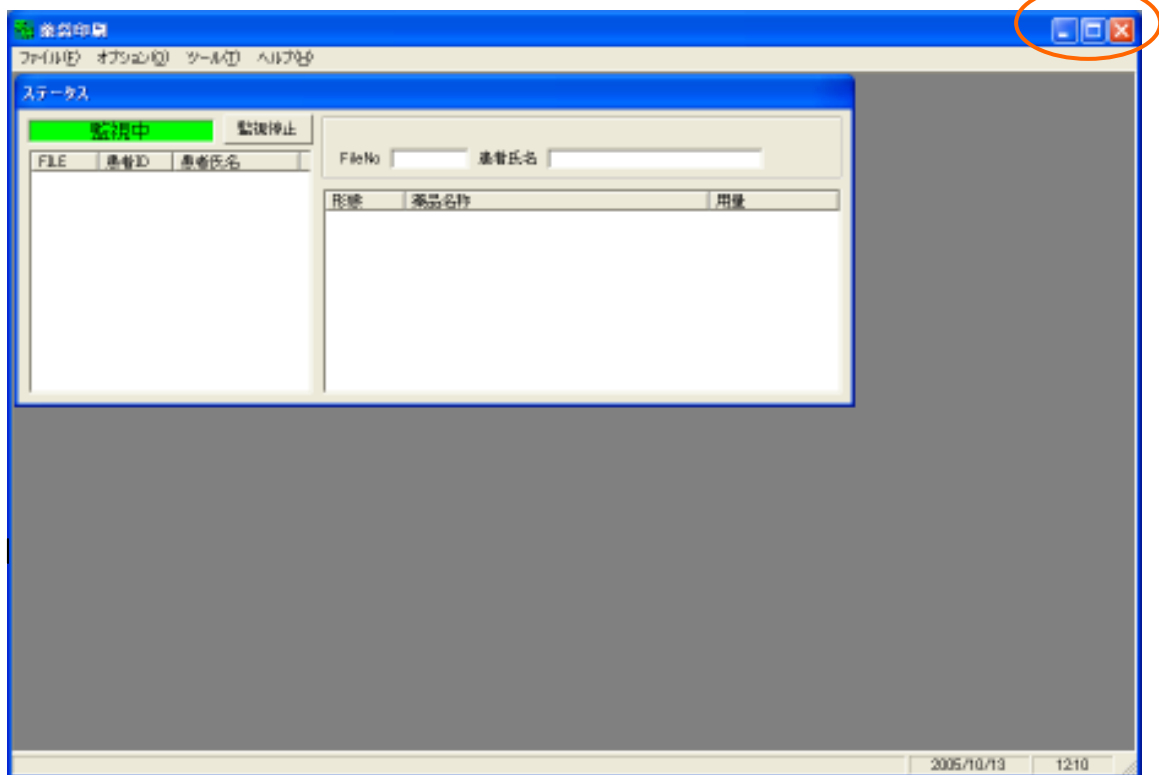
I. ソフトの起動・終了	2
II. メイン画面の説明	3
III. 印字設定	
1. 印刷プリンターの選択	4
2. 実際に印刷されるイメージを確認しながら、印字様式、印字位置の変更を行う	5
IV. システム設定-拡張 (薬袋印刷の基本ルールを決める)	6
V. 薬袋サイズの判定	
1. 薬袋のサイズを判定する為の「単位」を決める	10
2. あらゆる形状の薬品も、薬品ごとに「単位」を設定	12
VI. 薬品マスターの活用	
1. 薬品単位で必要な設定を行う	13
2. ヒート包装の規定量を設定して、粉薬の1回量をきっちり印刷	15
VII. 粉薬の混合	
1. 粉薬の計量混合を判断させるには	16
VIII. 患者マスターの活用	
1. 患者個別にシステム設定を変更する	18
2. 患者マスター活用の応用編	19
IX. 発行の手順	
1. ボタンひとつで薬袋発行。確認画面を停めて、薬袋の有無、枚数・サイズの変更、編集を行う	20
2. 薬袋の再発行	21
X. 付録	
1. 薬袋に画像を貼り付けて、オリジナル薬袋を作る	22
2. 薬品マスターと患者マスターのバックアップ	23

1. ソフトの起動・終了

【起動】



薬袋ソフトがインストールされているパソコンで、このアイコンをダブルクリックするとソフトが起動します。



ソフトが立ち上がりましたら、画面右上にある〔最小化〕ボタンを押してタスクバーへ画面を下げておきます。

【終了】

ソフトをタスクバーから画面に上げて〔閉じる〕ボタンを押して終了して下さい。

II.メイン画面の説明

オプション(O)・・・**全ての設定はここから行います。**

- 印刷設定 (P4)
- システム設定 (P6)
- 薬品マスタ メンテ (P13)
- 患者マスタ メンテ (P18)

当日レセコンから薬袋発行指示がきた患者の名前が上がっています。
※患者名でクリックすると薬袋リスト（一時停止画面）を表示できます。（P19）
 ※ **F1:検索** を押すと、フリガナ、受付番号などから検索がかけられます。

監視中 → レセコンから薬袋発行指示がきたら薬袋を発行できる状態。
監視停止 → レセコンから薬袋発行指示がきても薬袋を発行できない状態。
 （送られてきたデータは消えません。監視中に変わると薬袋が発行されます。）
 ※監視停止の状態になっている時は以下のことが考えられます。

- ① 設定変更中である。（クライアント側で変更している場合も）
- ② 横にある **監視停止** ボタンを押している。
- ③ 薬袋リスト（一時停止画面）が開いた状態にある。

ポイント
監視停止 ボタンをプリンタートラブルの際に押せば、薬袋データをプリンターに送らず待機しておくので、プリンター復旧後に再度 **監視停止** ボタンを押せば待機していた薬袋を全て発行できます。

III.印字設定

薬情付き薬袋をご使用の場合は別紙追加マニュアルをご覧ください。

1.印刷プリンターの選択

オプション ⇒ 印刷設定

使用	プリンタ	H/W	用紙	向き
<input checked="" type="checkbox"/>	EPSON PM-A850	7	11	0
<input checked="" type="checkbox"/>	EPSON PM-A850	7	13	0
<input checked="" type="checkbox"/>	EPSON PM-A850	7	9	0
<input checked="" type="checkbox"/>		0	0	0
<input checked="" type="checkbox"/>		0	0	0

項目名	印刷	X	Y	フォント	サイズ	書式
薬種	<input checked="" type="checkbox"/>	82.0	42.0	MS Pゴシック	40	[詳細は、ここ...]
調剤日	<input checked="" type="checkbox"/>	20.0	75.0	MS Pゴシック	18	調剤日:+
受付番号	<input type="checkbox"/>	35.0	20.0		16	受付番号:
医療機関	<input checked="" type="checkbox"/>	145.0	65.0	MS Pゴシック	18	
診療科目	<input checked="" type="checkbox"/>	145.0	75.0	MS Pゴシック	18	診療科:
患者フリガナ	<input checked="" type="checkbox"/>	75.0	93.0	MS Pゴシック	20	+
患者氏名	<input checked="" type="checkbox"/>	70.0	100.0	MS Pゴシック	34	+様
薬品名称	<input checked="" type="checkbox"/>	10.0	10.0	MS Pゴシック	14	
薬品コメント	<input checked="" type="checkbox"/>	40.0	223.0	MS Pゴシック	20	
用法タイトル	<input checked="" type="checkbox"/>	32.0	115.0	MS Pゴシック	22	+
用法	<input checked="" type="checkbox"/>	45.0	143.0	MS Pゴシック	28	+
1回量	<input checked="" type="checkbox"/>	40.0	162.0	MS Pゴシック	26	
1日回数	<input checked="" type="checkbox"/>	40.0	128.0	MS Pゴシック	26	+
日数・回数	<input checked="" type="checkbox"/>	129.0	150.0	MS Pゴシック	25	+
服用指示タイトル	<input type="checkbox"/>	0.0	0.0		0	
服用指示	<input type="checkbox"/>	40.0	133.0	MS Pゴシック	26	
注意事項タイトル	<input checked="" type="checkbox"/>	35.0	215.0	MS Pゴシック	20	+
注意事項	<input type="checkbox"/>	50.0	168.0		0	
コメント	<input type="checkbox"/>	50.0	176.0		0	
薬局名称	<input type="checkbox"/>	30.0	240.0	MS Pゴシック	36	

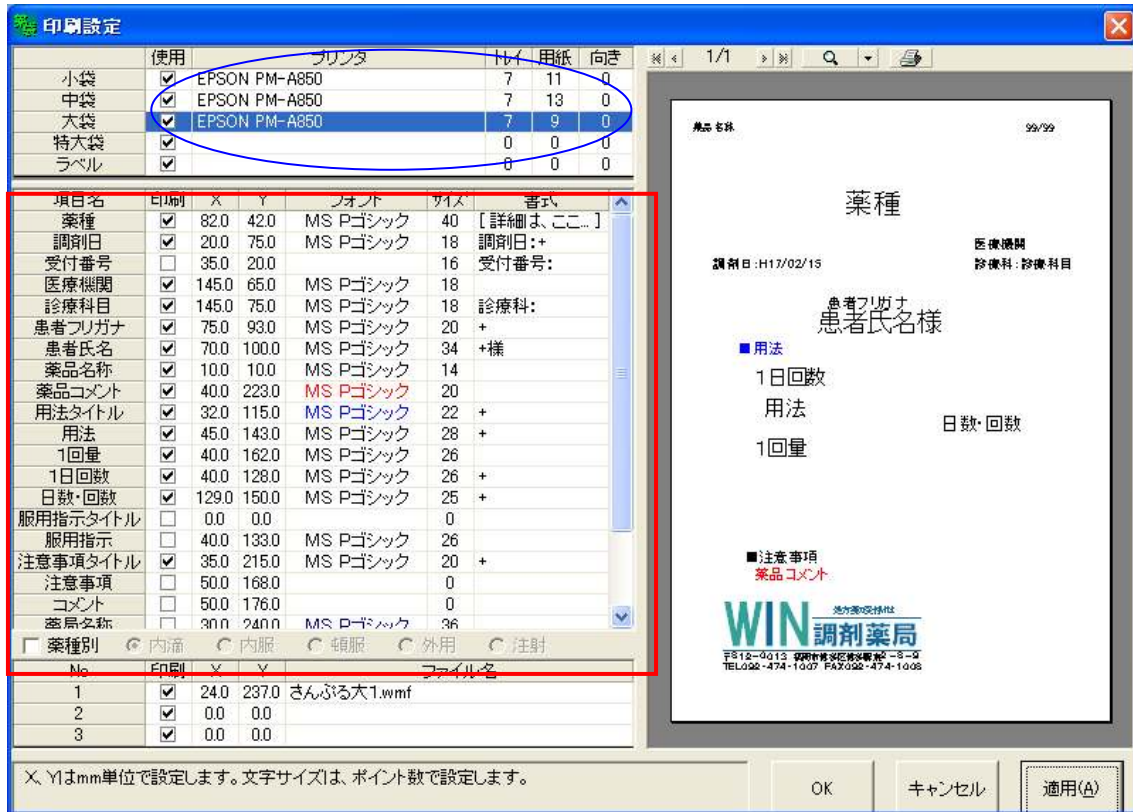
No	印刷	X	Y	ファイル名
1	<input checked="" type="checkbox"/>	24.0	237.0	さんぶる大1.wmf
2	<input checked="" type="checkbox"/>	0.0	0.0	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	0.0	0.0	

薬袋は「小袋」、「中袋」、「大袋」、「特大袋」の4種類、「ラベル」は1種類から選択。

使用：使用する薬袋サイズにチェックを付けます。

プリンタ：ダブルクリックするとプリンター選択画面が開くので、使用するプリンターと用紙サイズを選択します。

2. 実際に印刷されるイメージを確認しながら、印字様式、印字位置の変更を行う



設定変更する薬袋サイズの“プリンタ”欄をクリックします。すると右にイメージと、下に設定欄が表示されます。右のイメージを見て変更したい項目の設定値を変更します。

印刷：薬袋に印刷する項目にチェックを付けます。

X：印字位置を横に移動。数値が大きいと右よりに印字。

Y：印字位置を縦に移動。数値が大きいと下よりに印字。

※X、Yはmm単位で設定します。用紙の左上隅が座標0になります。

フォント：ダブルクリックするとウィンドウが開き、フォント種類、文字サイズ、文字スタイル、文字色の変更ができます。

サイズ：文字サイズの変更ができます。数値が大きいとサイズも大きくなります。

書式：印字される文字の前後に定型文を入れることができます。

薬種だけ、ダブルクリックすると、薬種毎に書式と文字色を設定できます。

(例) 通常の“調剤日”の印刷は、「H19/04/01」とだけ印刷されますが、書式で、「調剤日：+」と設定して薬袋を印刷すると、「調剤日：H19/04/01」と印刷されます。

※+マークを文の前後どちらに配置するかで、印字位置が決まります。

※薬袋イメージの更新は、変更を行う度に **適用** を押して下さい。

全ての設定が終了したら、**適用** を押して、**OK** で終了。

IV.システム設定-拡張(薬袋印刷の基本ルールを決める)

オプション ⇒ システム設定 ⇒ 拡張

システム設定

基本 | **拡張** | 薬袋サイズ | 薬品別コメント | 患者別コメント | システム1 | システム2

薬袋を発行しない薬種
 内滴 内服 頓服 外用 注射薬・その他

錠剤の単位
 カプセルの単位

No	SW	オプション
1	<input checked="" type="checkbox"/>	同一服用をまとめる
2	<input type="checkbox"/>	一包化時に、起床時・朝・昼・夕・就寝前に分ける
3	<input type="checkbox"/>	不均等の薬袋を別にする(単独にする)
4	<input type="checkbox"/>	外用の薬袋をまとめる
5	<input type="checkbox"/>	最大薬袋を複数枚印刷する
6	<input checked="" type="checkbox"/>	一包化時に、用量を1回1包とする
7	<input type="checkbox"/>	別袋指定のある薬品同士をまとめる
8	<input checked="" type="checkbox"/>	用量の異なる薬品をまとめる
9	<input type="checkbox"/>	一薬品一薬袋とする
10	<input checked="" type="checkbox"/>	用量の横に薬品名を印刷する
11	<input checked="" type="checkbox"/>	印刷前に一時停止する
12	<input checked="" type="checkbox"/>	服用時点を印刷しない
13	<input type="checkbox"/>	薬品名称を印刷しない
14	<input type="checkbox"/>	医療機関・診療科目を印刷しない
15	<input checked="" type="checkbox"/>	最大薬袋を超える薬袋は印刷しない
16	<input checked="" type="checkbox"/>	一包化時に、就寝前を分ける
17	<input checked="" type="checkbox"/>	薬品名称を1行ごとに印刷する
18	0	薬袋区別 0=医師/1=診療科/2=病院/3=区別なし
19	<input type="checkbox"/>	薬袋を一袋で印刷する
20	<input type="checkbox"/>	用法の「朝・昼・夕」に色をつける
21	<input type="checkbox"/>	一包化用法「毎食」->「朝・昼・夕」
22	<input type="checkbox"/>	初期状態で薬袋の印刷チェック解除

OK キャンセル 適用(A)

⇒ 適用させる項目にチェックを付けます。
 ※一部指定された数字を入れます。

薬袋を発行しない薬種：チェックの付いた薬種は薬袋を印刷しません。

錠剤の単位：錠剤の1回量に付ける単位を決めます。

カプセルの単位：カプセルの1回量に付ける単位を決めます。

印刷順を逆にする：印刷される薬袋の順番を逆からにすることができます。

(例) 通常 A→B→C の順番でプリンターから印刷されるのが、C→B→A の順番で印刷できます。

印刷先を2セットにする：薬袋をプリンター2台に振り分けて印刷する時に使用。

印刷先を4セットにする：薬袋をプリンター4台以内に振り分けて印刷する時に使用。

※以下からは、チェックが付いた場合の説明をします。

No. 1 同一服用をまとめる：同一服用の薬品をレセコンで分けて入力していても、薬袋はまとめて印刷します。

No. 2 一包化時に、起床時・朝・昼・夕・就寝前に分ける：

チェックあり → 一包化の連続巻きに対応した薬袋を印刷します。

チェックなし → 一包化の反復巻きに対応した薬袋を印刷します

(例) 処方 指示：全て一包化

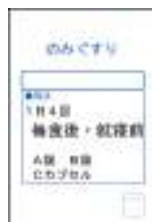
A錠	2錠
1日2回朝・夕食後	14日分
B錠	3錠
1日3回毎食後	14日分
Cカプセル	1C
1日1回就寝前	14日分

【チェックあり】



朝食後・昼食後・夕食後・就寝前の4枚の薬袋に分けて印刷されます。

【チェックなし】



最大用法にまとめて印刷されます。

※食前は食前のみでまとめ、直前、直後に関しては他とまとめません。

起床時と就寝前は食後といっしょにまとめます。

No. 3 不均等の薬袋を別にする (単独にする)：同一服用内に不均等で服用する薬品が含まれている場合、薬袋は別に印刷します。

No. 4 外用の薬袋をまとめる：外用で同一服用の薬品は、同じ薬袋で印刷します。(部位も同じであること)

- No. 5 最大薬袋を複数枚印刷する**：薬袋サイズ判定計算で、最大薬袋サイズの「単位」をも超えた場合に更にもう一枚同じ薬袋を印刷します。
- No. 6 一包化時に、用量を1回1包とする**：一包化時に、服用時点に重なりがない薬品も一包化として判断します。（一包化入力した薬品のみ適用）
- No. 7 別袋指定のある薬品同士をまとめる**：薬品マスタにて別袋指定にしてある薬品同士は同じ薬袋にまとめて印刷します。
- No. 8 用量の異なる薬品をまとめる**：1回服用量の異なる薬品も同じ薬袋に印刷します。
- No. 9 一薬品一薬袋とする**：全ての薬品を単独で一枚の薬袋に印刷します。
- No. 10 用量の横に薬品名を印字する**：薬品名を1回服用量の横に印字します。
- No. 11 印刷前に一時停止する**：[P20 参照](#)
- No. 12 服用時点を印刷しない**：「服用時点」の印刷をしません。
- No. 13 薬品名称を印刷しない**：「薬品名称」の印刷をしません。
- No. 14 医療機関・診療科目を印刷しない**：「医療機関・診療科目」の印刷をしません。
- No. 15 最大薬袋を超える薬袋は印刷しない**：薬袋サイズ判定で、最大薬袋サイズの「単位」をも超えた薬袋は印刷しません。
- No. 16 一包化時に、就寝前を分ける**：“No. 2 一包化時に、起床時・朝・昼・夕・就寝前に分ける”設定で、一包化の薬袋を印刷した場合、通常まとまる「就寝前」の薬袋を別にして印刷します。
- No. 17 薬品名称を1行ごとに印刷する**：“No. 10 用量の横に薬品名を印字する”設定で、薬品名を1行ごとに改行してタテに並べて印字します。

No. 18 薬袋区別 0=医師/1=診療科/2=病院/3=区別なし

※ご利用されている薬袋印刷ソフトのタイプによっては使用できません。

別途レセコン別資料を参照ください

No. 19 薬袋を一袋で印刷する：薬袋を1枚にまとめて印刷します。

※服用法、日数、1回量（全量）、薬品名は印刷されません。調剤日、患者氏名、医療機関名、診療科、画像ファイルのみが印刷されます。

No. 20 用法の「朝・昼・夕」に色をつける：**No. 21 一包化用法「毎食」→「朝・昼・夕」**：一包化時に、「朝・昼・夕（食後、食前）」で印刷します。

※主に、レセコンの用法マスターで3×服用のものを「分3 朝・昼・夕（食後、食前）」で作成してある場合に設定します。

No. 22 初期状態で薬袋の印刷チェック解除：レセコンから薬袋発行指示が来ても、薬袋をプリンターへ発行しません。

※一時停止画面を利用の場合は、“印刷のチェック”が外れて画面が停止します。

ポイント

No. 12 と No. 13 と No. 14 は、患者マスタ マンを利用して患者単位で使用。

No. 9 と No. 19 と No. 22 は、システム設定内ではチェックが付かず、患者マスタ マンを利用して、患者単位で設定を行って下さい。

全ての設定が終了したら、を押して、で終了。

V. 薬袋サイズの判定

1. 薬袋のサイズを判定する為の「単位」を決める

※本ソフトウェアでは、薬袋の大きさや薬の大きさを「単位」であらわします。

オプション ⇒ システム設定 ⇒ 薬袋サイズ判定

システム設定

基本 拡張 **薬袋サイズ判定** 薬品別コメント システム1 システム2

本ソフトウェアでは、薬袋の大きさや薬の大きさを「単位」であらわします。

薬袋の大きさ

小袋のサイズ 505 単位まで
 中袋のサイズ 1110 単位まで
 大袋のサイズ 2700 単位まで
 特大袋のサイズ 5400 単位

薬の大きさ

錠剤の大きさ 3 単位
 カプセルの大きさ 5 単位
 散薬用紙の大きさ 25 単位
 一包用紙の大きさ 25 単位

使用薬袋 初期値

頓服の薬袋 初期値 自動
 外用薬の薬袋 初期値 自動
 一包時の薬袋 初期値 自動

ラベル

薬袋を全てラベルにする
 用量mlのラベルを複数枚印刷する 7日毎 均等 7日毎 7日と端数

OK キャンセル 適用(A)

薬袋の大きさ：使用する薬袋サイズによって単位が変わります。P10 参照

薬の大きさ：錠剤1錠、カプセル1個、散薬用紙1包、一包用紙1包の単位を決めます。

P11 参照

※↑この数値を変更するとシステム全ての計算に影響します。導入時設定後は薬局様独自に変更されないことをお勧めします。

使用薬品初期値：頓服、外用薬、一包時の薬袋サイズを一律にしておく事ができます。自動を選択してあれば、通常通りの計算を行います。

全ての設定が終了したら、**適用**を押して、**OK**で終了。

《Windy オリジナル薬袋》

S サイズ： 縦 190×幅 128 M サイズ： A5
 ML サイズ： 縦 229×幅 164 L サイズ： A4

① 薬袋に少し余裕をもたせて薬品を入れる場合

薬袋の大きさ： S サイズ 420、ML サイズ 1050、L サイズ 2520
 (M サイズ 840、B5 サイズ 1580~1680)

薬の大きさ： 錠剤 3、カプセル 5、散薬用紙 25、一包用紙 30

② 薬袋にぴったり薬品を入れる場合

薬袋の大きさ： S サイズ 505、ML サイズ 1110、L サイズ 2700
 (M サイズ 840、B5 サイズ 1680)

薬の大きさ： 錠剤 2.5、カプセル 4、散薬用紙 25、一包用紙 30

***** 薬袋サイズ判定の計算式 *****

処方

A錠	2錠
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>28日分</u>
B錠	3錠
Cカプセル	3C
<u>1日3回毎食後</u>	<u>28日分</u>

(薬袋に少し余裕をもたせて薬品を入れる場合)

まず上記処方の場合、「朝・夕食後」と「毎食後」の薬袋が各 1枚ずつ印刷されます。

「朝・夕食後」の薬袋は、A錠が 56錠入るので、

56錠×錠剤の単位 3=168単位となります。

「毎食後」の薬袋は、B錠が 84錠、Cカプセルが 84C入るので、

B錠 84錠×錠剤の単位 3=252単位

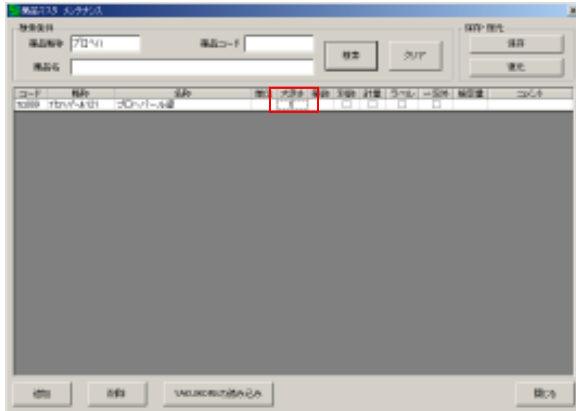
Cカプセル 84C×カプセルの単位 5=420単位となり、足して 672単位となります。

よって、**小袋**の「単位」の限度は 420単位までなので、A錠の朝・夕食後の薬袋は 168単位でそれに満たないので、**小袋**が 1枚印刷されます。B錠とCカプセルの毎食後の薬袋は、B錠 252単位+Cカプセル 420単位=672単位となるので、**小袋**の「単位」の限度 420単位を上回りますが、**中袋**の「単位」の限度 1110単位には満たないので、**中袋**が 1枚印刷されます。

2. あらゆる形状の薬品も、薬品ごとに「単位」を設定

錠剤でもカプセル剤でも、薬品によってヒートサイズに大きな違いがあるので、その薬品ごとに適した「単位」の設定ができます。

オプション ⇒ 薬品マスタ マネ ⇒ 薬品を検索
⇒ 大きさの欄に数値を入力する ⇒ 閉じる を押して終了



(例) 錠剤	プロハール	5.5 (5~6)	カプセル	タマック E	初期設定 4 の時→5	5 の時→6	
	コロル	5.5 (5~6)		EPL	初期設定 4 の時→5	5 の時→6	
	スローケー	5.5 (5~6)		エパデル	初期設定 4 の時→5	5 の時→6	
	サラゾピリン	5.5 (5~6)					
散薬	セルベックス細粒	8	プロマック	8	マースレン	10	
	ピオフェルミン	10	ピーマゲン	10 または 12	アルサルミン	10	
	マロックス懸濁液	10 または 12		アデホスコワ顆粒	12	アローセン	18
	クレミン	30	クレスチン	30			
外用	セルベントデイスカス	500	フルタイトデイスカス	500	パルミコートタービュレー	250	
	初プロロト軟膏	36					

※上記に無い散薬のヒート品については、上記と大きさを比較し、数値を決めて下さい。

(例) ラックビー微粒はピオフェルミンと同じくらいなので「10」と設定。

※上記サイズはあくまでも参考値です。

※「単位」の大きさは、薬品の体積比率で考えて下さい。漢方薬 1 包のサイズを 20 単位としてあるので、それを基準にして下さい。



VI.薬品マスターの活用

オプション ⇒ 薬品マスター

コード	略称	名称	単位	大きさ	薬袋	別袋	計量	ラベル	一包外	規定量	コメント
アマ01	アマール1MG12	アマリール1mg錠				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		糖の薬です
アマ01	アミサリン12125	アミサリン錠250mg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アマ01	アムロジウム1212	アムロジウム錠2.5				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アマ02	アムロジウム1215	アムロジウム錠5				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アモ01	アモバン1217-	アモバン錠7.5				<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アラ01	アラセナA642	アラセナ-A軟膏				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アリ01	アリセプト1213	アリセプト錠3mg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アリ02	アリセプト1215	アリセプト錠5mg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アリ01	アリナミンFトワイ1	アリナミンF糖衣錠〔25mg〕				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アル01	アルダクトンA12	アルダクトンA錠				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アル01	アルダクトン121	アルダクトン錠250				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アル01	アルファロール131	アルファロールカプセル0.5μg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アル01	アルマール12110	アルマール錠10				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アル01	アルロイドG	アルロイドG				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アレ01	アレグラ12160	アレグラ錠60mg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アレ01	アレジオン1212	アレジオン錠20				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アレ01	アレロック1215	アレロック錠5				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アロ01	アローゼン	アローゼン		12		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	○	
アロ01	アロストール	アロストール				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
アン01	アンセバ	アンセバ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		冷所保存し
アン02	アンセバ200	アンセバ200				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		冷所保存し
イン01	インジゲン616	インジゲンガーグル				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
イミ01	イミグラン1215	イミグラン錠50				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
イン02	インテバン645	インテバン外用液				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
イン01	インデラル1211	インデラル錠10mg				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		
イリ01	イリシム1100M	イリシム100mg...				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		

○**単位**：薬品ごとに印刷する1回量（外用の場合は全量）の単位を決められます。

※錠剤とカプセルのデフォルト単位は、オプション ⇒ システム設定 ⇒ 拡張にて設定します。

○**大きさ**：P10参照

○**薬袋**：薬品ごとに固定の薬袋サイズの設定ができます。“なし”を選択した場合は、その薬品の薬袋は印刷しません。

※湿布薬、水薬、器具、容器等の薬袋は、初期導入の際に有無を確認し、設定します。

○**別袋**：チェックの付いた薬品は薬袋を単独で印刷します。

（例）糖尿病薬だけは同用法、同日数の別薬剤があっても別の薬袋に入れる場合。

○**計量**：P16参照

○**ラベル**：ラベル印刷します。別途水剤ラベルマニュアルを参照

○**一包外**：レセコンから薬袋システムへ一包化指示できても、チェックの付いた薬品は、一包化から自動で外れます。＝ヒート扱いになります。

（例）吸湿性の問題等でほとんどの場合一包化しない薬品。

※設定した薬品を一包化に入れる患者様がいる場合は、患者マスタ（P.19）を利用してください。

○**規定量**：P15 参照

○**コメント**：薬品ごとに**薬品コメント**の設定ができます。

※オプション ⇒ システム設定 ⇒ 薬品別コメント から、定型文を最初に作成できます。

コードの欄をダブルクリックすると、薬品詳細画面が開きます。

The screenshot shows a dialog box titled '薬品詳細' (Drug Details) with the following fields and values:

- コード (Code): イゾ01
- 略称 (Abbreviation): イゾ01B
- 名称 (Name): イゾジンガーブル 7%
- 単位 (Unit):
- 大きさ (Size):
- 薬袋 (Bag): 0自動
- 計量 (Measurement): 計量割合加算
- 一包外 (One-pack out): 一包化除外薬品
- 種類 (Type): 0
- コメント (Comment):
- 印刷薬種 (Print Drug Type): イゾ01薬

○**印字薬種**：薬種タイトルを薬品ごとに設定できます。

- 薬品にヒート規定量を設定することで、規定品がいくつもある薬品も1回服用量の認識を正しく行います。(整数が大きいものを優先に計算します)

オプション ⇒ 薬品マスター

- ⇒ 設定を行う薬品を検索する
- ⇒ 規定量のところで、ダブルクリックすると上の画面が現れます
- ⇒ ヒート規定量の欄にその薬品の規定量を入れる
- ⇒ 大きさの欄に薬袋サイズ判定の「単位」(大きさ)を入れる
※通常のサイズ計算でよければ、空白のまま構いません。
- ⇒ を押して終了

※粉薬は通常“何g”であっても1回量を「1回1包」で印刷します。したがって、1回量が必ず1包でしか服用しない粉薬にはヒート規定量の設定は必要ありません。しかし、1回に2包以上で服用する場合がある薬品はヒート規定量の設定が必要となります。例えば、規定品が1gしか薬局にない粉薬を1回に2g服用するなら、1g包装を2包服用することになります。その判断を薬袋印刷に反映させるために規定量の設定をします。

(例) アローゼンが0.5g包装しか薬局にない場合。ヒート規定量で0.5と設定。

処方 アローゼン 1g
1日1回朝食後 14日分

1日量が1gなので、1包が0.5gだと1回に2包服用だと判断して、1日1回朝食後14日分 1回2包と印刷します。

VII. 粉薬の混合

計量混合した粉薬を1包と認識させ薬袋を出すには、あらかじめ以下の設定が必要です。

オプション ⇒ 薬品マスタ マンテ

薬品マスタ マンテナンス

検索条件

薬品略称 薬品コード

薬品名

検索 クリア

保存・復元

保存 復元

コード	略称	名称	単位	大きさ	薬袋	別袋	計量	ラベル	一包外	規定量	コメント
ヘリア02	ヘリアクチン112	ペリアクチン散1%				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		

追加 削除 YAKUWORKの読み込み 重複コード整理 閉じる

- ⇒ 薬品の一覧から、薬局内で同用法内に粉薬が2種類以上あれば計量混合を行うと考えられる薬品を選択します
- ⇒ 計量と書かれた場所にカーソルを持っていきチェックを付けます（計量が考えられる全ての粉薬に付けていきます）
- ⇒ この設定を行うことにより、チェックのある粉薬同士が同じ用法内にあった場合に、その粉薬は計量混合したと判断を行います

※混合だと判断した薬袋は、薬袋サイズの判定と、1回服用量の印字内容が変わります。

(例1) 粉薬A (チェック有)	1 g
粉薬B (チェック有)	1 g
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>7日分</u>

この場合、薬袋1枚。1日2回朝・夕食後、7日分、1回1包で印刷されます。
薬袋サイズは、散薬用紙を14包入れるものとして計算します。

(例2) 粉薬A (チェック有)	1 g
粉薬B (チェック有)	1 g
粉薬C (チェック無し)	1 g
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>7日分</u>

この場合、薬袋1枚。1日2回朝・夕食後、7日分、1回各1包(2種類)で印刷されます。
薬袋サイズは、散薬用紙を28包入れるものとして計算します。

(例3) 粉薬A (チェック有)	1 g
粉薬C (チェック無し)	1 g
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>7日分</u>
粉薬B (チェック有)	1 g
<u>1日1回朝食後</u>	<u>7日分</u>

この場合、薬袋2枚。1日2回朝・夕食後、7日分、1回各1包(2種類)が1枚と、1日1回朝食後、7日分、1回1包が1枚で印刷されます。

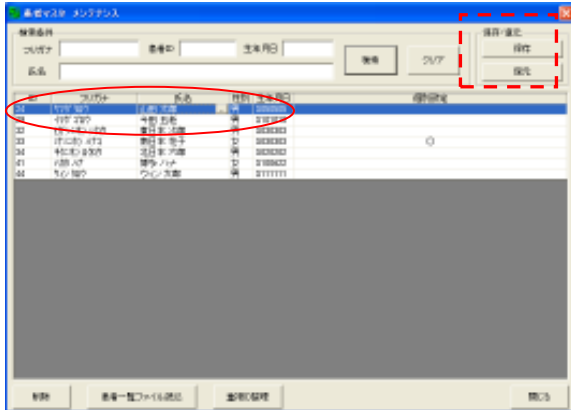
(例4) 粉薬A (チェック有)	1 g
粉薬B (チェック有)	1 g
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>7日分</u>
粉薬D (チェック有)	1 g
<u>1日2回朝・夕食後</u>	<u>7日分</u>

※粉薬A、粉薬Bのみを混合して、粉薬Dはこの処方上では混合しないとする場合、
入力の仕方を散薬A、Bと散薬Dを同用法内でも別入力してください。

この場合、薬袋1枚。1日2回朝・夕食後、7日分、1回各1包(2種類)で印刷されます。
薬袋サイズは、散薬用紙を28包入れるものとして計算します。

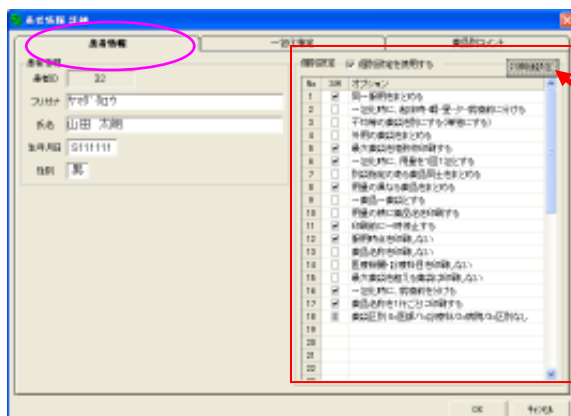
VIII.患者マスターの活用

オプション ⇒ 患者マスター



⇒ 設定する患者を検索し、フリガナ、氏名、性別のいずれかでダブルクリックします

(患者情報)

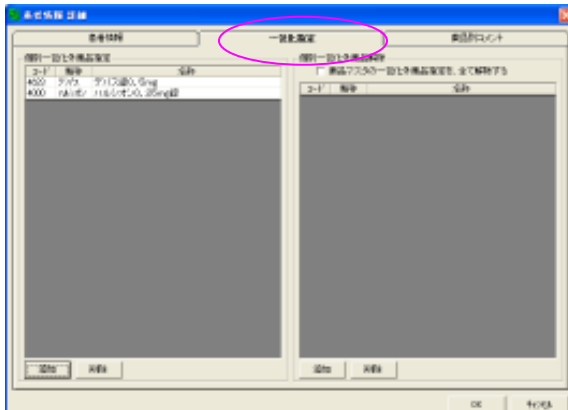


要注意

“個別設定を使用する”にチェックを入れたら、必ず『初期値設定』を押して下さい。押すと設定がシステム設定と同じ値になりますので、それから設定を行います。

○個別設定を使用する: チェックを入れたら、患者単位でシステムの拡張設定が行えます。

(一包装指定)



個別一包装外薬品指定

追加 → 薬品選択画面が開くので、この患者だけの一包装外薬品を選択します。

(※薬品マスターで設定してある薬品以外を選択)

一包装外薬品の設定を取り消す場合、薬品を選択して「削除」を押して下さい。

※一包装外薬とは？ (P14 一包装外を参照)

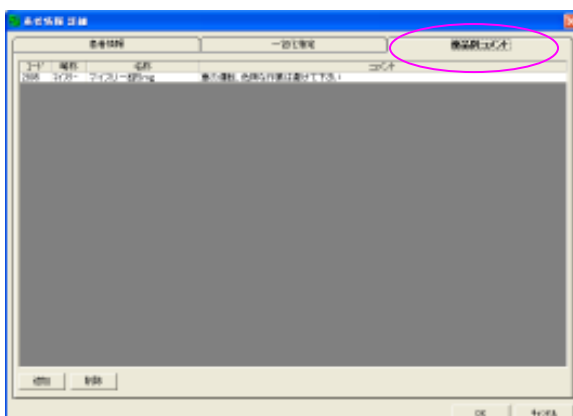
個別一包装外薬品解除

追加 → 薬品マスターで一包装外薬品に設定してある薬品一覧が開くので、この患者ごとに解除します。

□薬品マスターの一包装外薬品指定を、全て解除する：

薬品マスターで一包装外のチェックが付いた薬品をこの患者様だけ全て解除します。

(薬品別コメント)



患者単位で薬品コメントの設定ができます。

※オプション → システム設定 → 患者別コメント から、定型文を最初に作成できます。

追加 → 薬品選択画面が開くので薬品を選択して **追加**

→ コメント欄をダブルクリックして定型分を選択するか、手入力コメントを入れる。

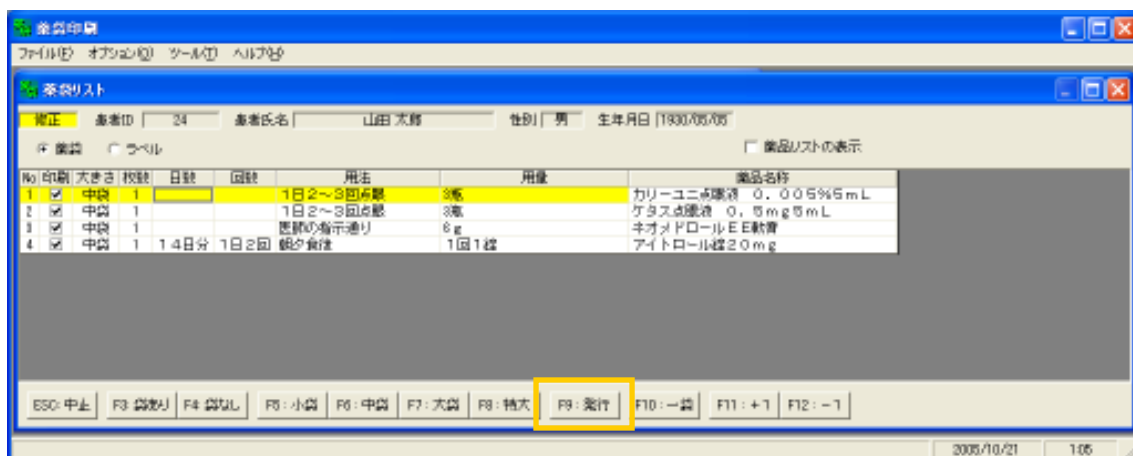
IX.印刷時の手順

1.ボタンひとつで薬袋を発行。確認画面を使えば、必要に応じて薬袋の有無、枚数・サイズの変更、編集が行えます

印刷までの手順は、各レセコンメーカーによって異なります。

別途レセコン別資料を参照下さい

あらかじめ、システム設定の拡張で「印刷前に一時停止する」にしておけば、転送後に薬袋詳細画面が現れ、必要に応じて枚数、薬袋の有無、その他訂正作業が行えます。



下に現れたファンクションキーガイドを基に操作を行います。(マウスでも操作可)

印刷：チェックの付いたものが印刷されます。

[F3：袋あり] ・ [F4：袋なし]

大きさ：薬袋サイズの変更ができます。

[F5：小袋] ・ [F6：中袋] ・ [F7：大袋] ・ [F8：特大]

枚数：印刷枚数の変更ができます。

[F11：+1] ・ [F12：-1]

日数・回数・用法・用量：それぞれの欄でクリックをするとカーソルが現れ、文章の継ぎ足し、変更ができます。

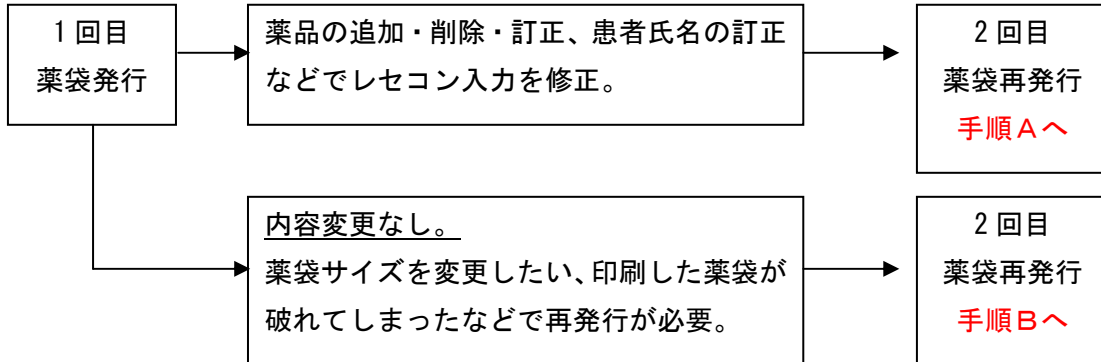
※日数、回数、用法、用量は文字打ち込みで修正することができます。但し、システム設定で“用量の横に薬品名を印字する”にしている場合は、用量のみ修正は行えません。

[F10：一袋]：薬袋を1枚にまとめて印刷します。(P9「19.薬袋を一袋で印刷する」参照)

全て変更が終了したら、**F9：発行**を押して印刷を開始します。

2.薬袋の再発行

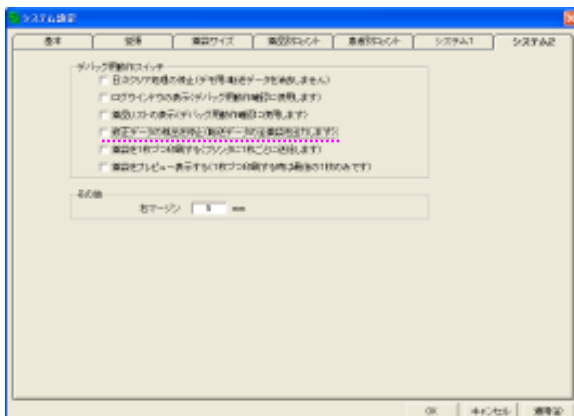
再発行には2つの流れがあります。



手順A…一度発行した患者の処方入力を修正したら、その変更箇所だけが再発行されます。

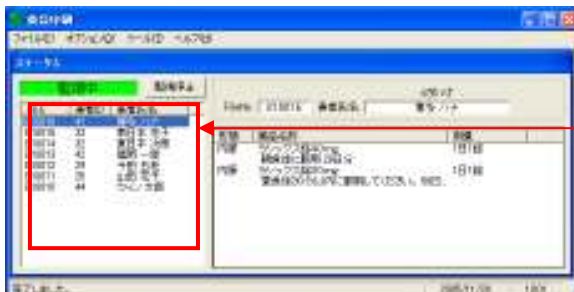
(一時停止画面を停めている場合は、変更箇所だけに印刷のチェックが付きます)

オプション ⇒ システム設定 ⇒ システム2



⇒ 修正データの検出を停止 (転送データの全薬袋を出力します) のチェックを外す

手順B…薬袋ソフトから直接再発行を行います。



再印刷する患者様の名前の箇所をクリックすると「確認画面(P. 19)」が現れるので、そこから再印刷を行います。

※再印刷する際はタスクバーから薬袋ソフトを画面に上げます。

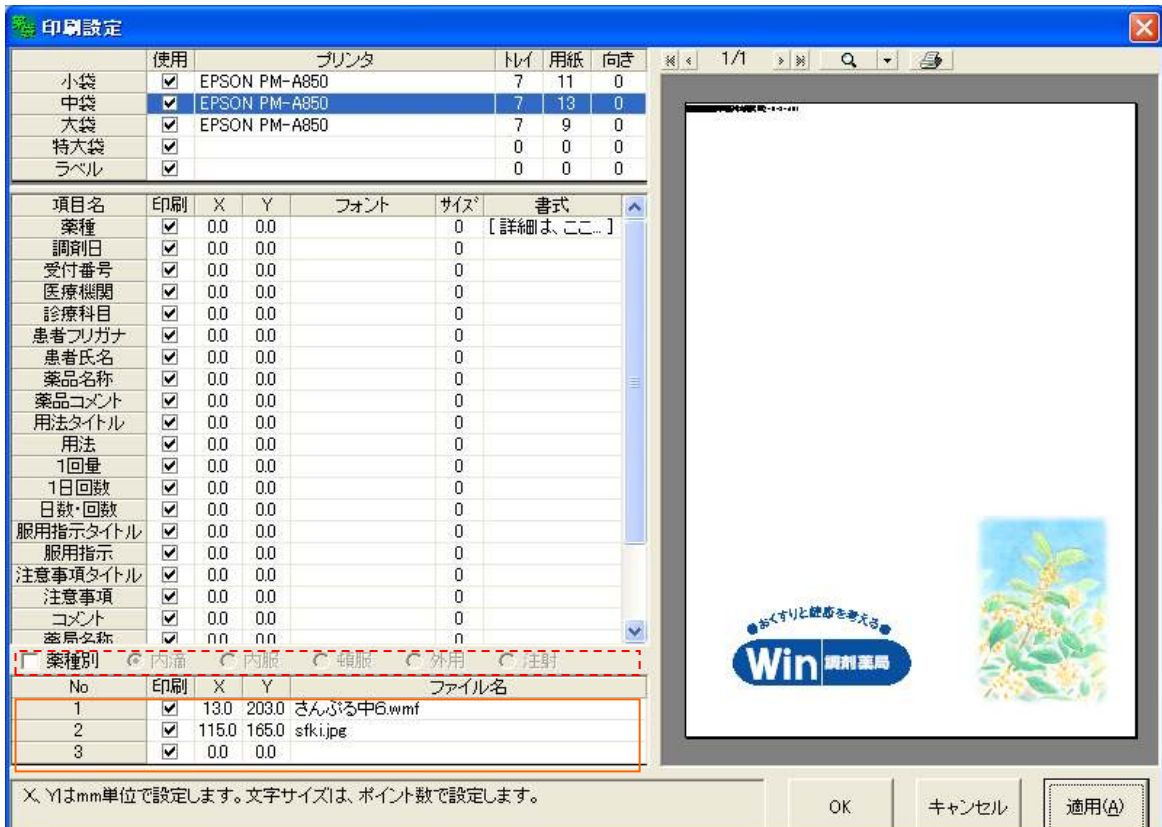
全ての設定が終了したら、**適用**を押して、**OK**で終了。

X.付録

1.薬袋に画像を貼り付けて、オリジナル薬袋を作る

薬種ごとに、jpg や gif などの画像を薬袋に貼り付けることができます。

オプション ⇒ 印刷設定



薬種別

チェックを付けると、薬種ごとに画像を貼り付けられます。

NO. 1、2、3の3つまで印刷する画像を選択できます。

印刷：薬袋に印刷する項目にチェックを付けます。

X：印字位置を横に移動。数値が大きいと右よりに印字。

Y：印字位置を縦に移動。数値が大きいと下よりに印字。

※用紙の左上隅が座標0になります。

ファイル名：ダブルクリックすると、ファイルから画像が選択できます。

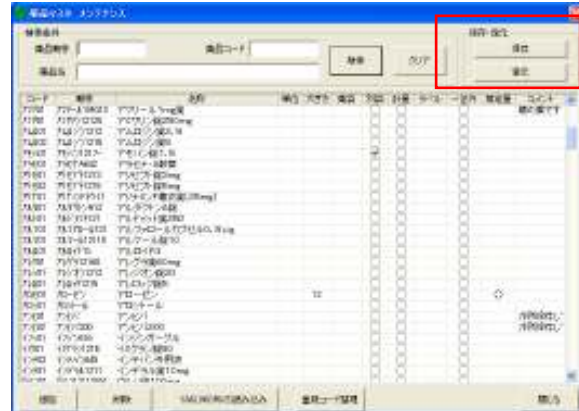
全ての設定が終了したら、**適用**を押して、**OK**で終了。

2.薬品マスターと患者マスターのバックアップ

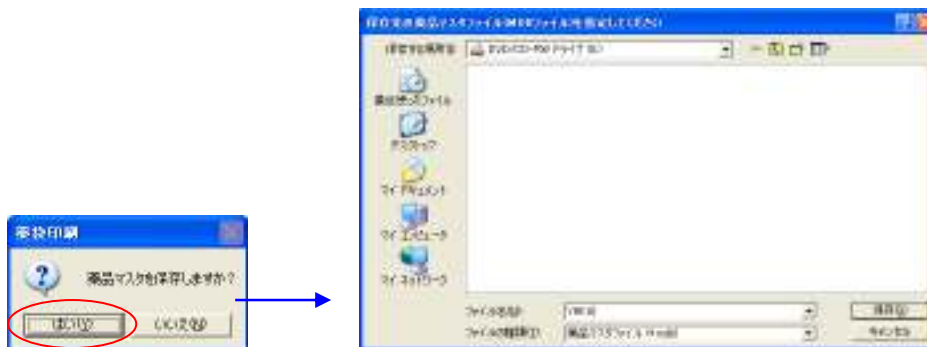
薬品マスター設定と患者マスター設定のバックアップをしておくことで、都合によって、いつでも復元することができます。設定変更を触りすぎて設定が複雑になってしまった時、データ破損時などに備えて、バックアップしておくことをお勧めします。

バックアップは薬品マスタ マンテと患者マスタ マンテのそれぞれで行います。

- オプション ⇒ 薬品マスタ マンテ
- ⇒ 患者マスタ マンテ



【保存 (バックアップ)】



- 薬品(患者)マスタを保存しますか? ⇒ はい(Y)
- ⇒ 保存先を指定して、ファイル名を yaku (kan) にしてから **保存(S)**
- ※ファイル名は自由に付けても構いませんが、分かり易いものにします。

【復元】



- 薬品(患者)マスタを復元しますか? ⇒ はい(Y)
- ⇒ 保存先のフォルダから「yaku.mdb」(「kan.mdb」)を開いて下さい。

ポイント

※ファイル名の前後に保存日を入れておくと、いつの設定なのかが分かります。